



洗える畳「洗畳」の新たなマーケット

株式会社小田畳商会
代表取締役 小田正弘

大正7年に小田仙兵衛が畳店を鹿児島市新屋敷町に始めました。サラリーマンを辞めさせられて帰ってきた私に父が、最初にしゃべった嘘のようなお話、それは、注文取りに行くな、仕事の量は増やせよというものでした。この言葉をバックに、昭和63年、日本人が好きな色合いの畳や絵柄の畳を印刷して、新しいマーケットを作り出そうと開発にのりだしました。畳の絵葉書、コースター、ストラップ等商品化して売れるようにはなりましたが、これはといえるほどのヒット商品にはなっていませんでした。

平成5年8月6日に起きた鹿児島大水害で、市内の多くの家が床上浸水になりました。水に濡れると100kg以上になる畳の重さに苦しみ、泥を含み悪臭を放つといった光景が市内の各地で見受けられました。そこで、水に濡れても重くならず汚れても洗って乾かせばすぐに使用できる畳の開発は出来ないものかと思いたちました。

工業技術センターへも相談に乗っていただき「水に濡らしても大丈夫な畳」を開発し、特許も取れたおかげで、畳のマーケットが広がることになりました。最初、自分でも考えていなかった展開になり、従来の畳では考えもよらなかった場所で、洗える畳「洗畳」(センジョウ)が活躍することになりました。平成18年には、鹿児島県トライアル発注制度の発注製品に選ばれ、開発した商品の売り上げが毎年増えてゆくのは、とても気持ちよく嬉しいものです。



ひまわり病院 (鹿児島市)

従来の畳は和室でしか使用することが出来ませんでした。洗える畳「洗畳」により、和室という空間を飛び越えてフローアなどでも活躍できるようになりました。例えば、ホテル・旅館の大浴場、介護施設、廊下、ペット用畳、庭の飛び石などにも利用されています。洗える畳「洗畳」は、水をかけても畳表で撥水してしまい、中に浸透することがないので、水を吸水して畳が重くなることはありません。洗える畳「洗畳」の重量は、7kgですが、従来のわら床の畳は一畳当たり15~30kgの重さですので約二分の一以下の重量へと軽量化ができました。このため、女性や年配の方でも楽々持ち運び出来、さらに、洗うことが出来るので、汚れた部分だけ取り外して洗い、干して敷き込めば清潔な畳に戻ります。

また、洗える畳「洗畳」は、畳の持つクッション性や温かさの特性も持っており、転倒したが畳のクッションのおかげで、怪我をしなかったとか、あるいは軽減できたとかの話や、タイル等に比べて、室内を4~5度高める保温効果のある事も実証されています。

建築市場では畳離れが進み、全国の新畳の生産が1997年をピークに約半分に落ち込んでいるのが現状です。是非とも、洗える畳「洗畳」が良い契機となればと思っています。

工業技術センターへは現在も技術相談でアイデアをいただき商品化に協力してもらっております。今後とも御指導をよろしくお願いいたします。



淡路インターナショナルホテル ザ・サンブラザ